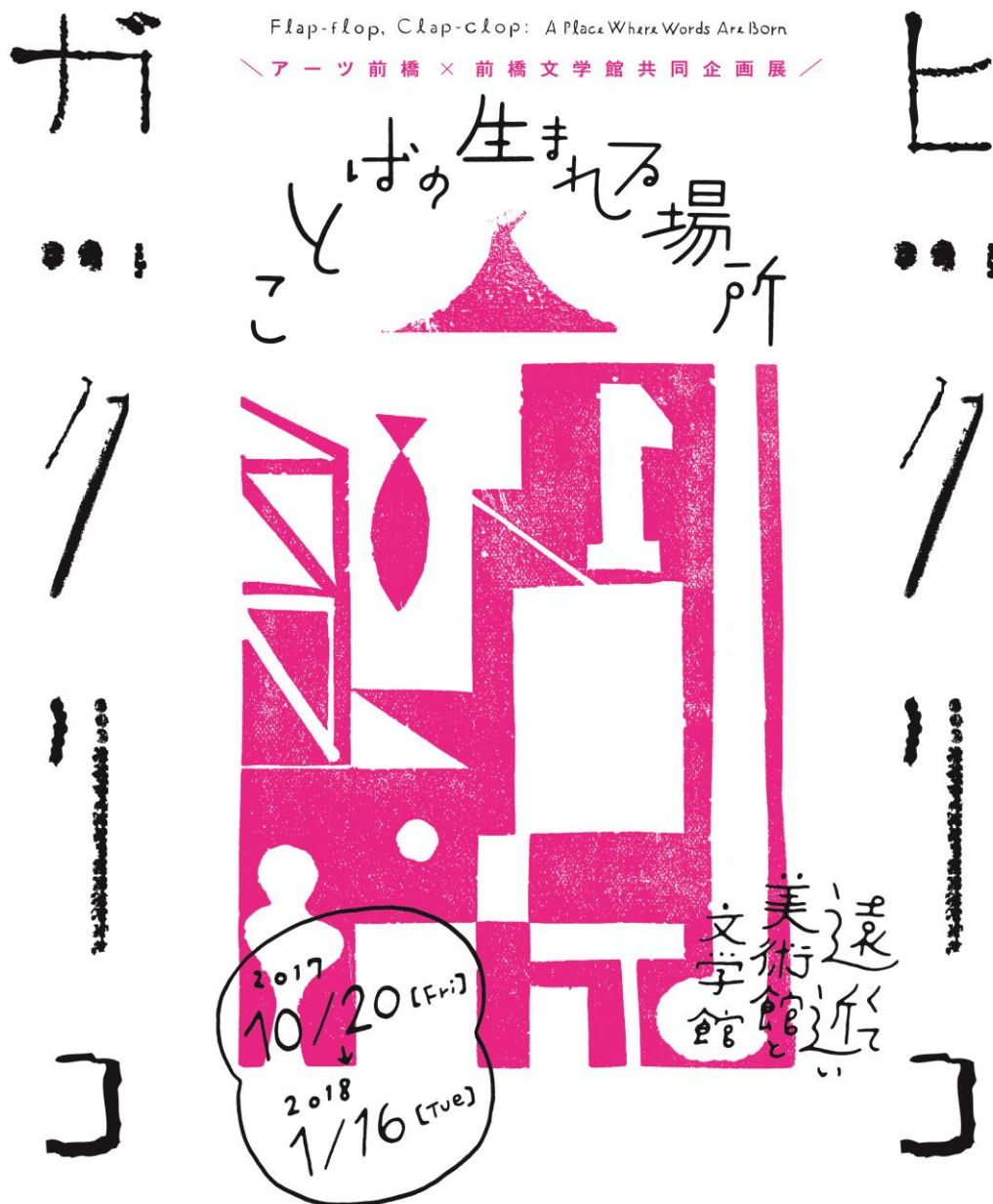


プレスリリース
PRESS RELEASE
2017/08/15

萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

アート前橋
ARTS MAEBASHI



前橋文学館



概要

ヒツクリコ、ガツクリコ

萩原朔太郎は夜の街を詩人が歩いていく様子を「憔悴するひとのあるく路・夕焼けの路（前橋市民に捧ぐる詩）」という未発表作品の中でこのように記しています。人は別の場所へ向かって歩き、誰かと出会い、誰かへ向けて言葉を投げかけます。また、文字にすることで、言葉は時間や場所を越えた他者とも対峙する手段になります。言葉は「私」とその他の生きる者たちとをつなぐものであり、時代や社会の変化と共にそのあり方も役割も変化するものです。

印刷やインターネット技術の誕生により言葉の性質は大きく変化しました。また、東日本大震災に直面した私たちは言葉による表現の限界を目の当たりにし、言葉を失うことさえも経験しました。私たちが生きることそのことへ疑問を抱いた時、時に叫びとして、また祈りとして、唄として、言葉は新たな形に変換されます。

本展では、文学と美術の表現を「ことば」という切り口からご紹介します。描かれた一つの線が絵や文字となり、そして美術や文学となるように、言葉は常に私たちの生きることのそばに存在しているものです。私たちは「ポスト真実」と呼ばれる危機の時代に直面しています。そのような社会的コンテキストの中で、過去のそして現在の時代の空気を芸術家や詩人たちが、個人の身体感覚を通じてどのように捉え、世界と対峙しているのかをぜひ感じていただきたいと思います。



【図1】鈴木ヒラク《Constellation#01》 2016年
紙にシルバーインクと墨汁、アルミニウムマウント
前澤友作氏蔵 ©Hiraku Suzuki



【図2】新国誠一『新国誠一詩集』 1979年
ASA(芸術研究協会)
うらわ美術館蔵

開催概要

- 【**展覧会名**】 ヒツクリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所
- 【**会 期**】 2017 年 10 月 20 日(金)～2018 年 1 月 16 日(火) 70 日間
※会期中一部展示替えあり
[前期]：2017 年 10 月 20 日(金)～11 月 28 日(火)
[後期]：2017 年 11 月 30 日(木)～2018 年 1 月 16 日(火)
- 【**開館時間**】 アーツ前橋 11:00～19:00(入場は 18:30 まで)
前橋文学館 9:00～17:00(入場は 16:30 まで)
- 【**休 館 日**】 水曜日、年末年始(12 月 28 日(木)～1 月 4 日(木))
- 【**会 場**】 アーツ前橋(群馬県前橋市千代田町 5-1-16)、前橋文学館(群馬県前橋市千代田町 3-12-10)
- 【**観 覧 料**】 共通観覧券 一般 700 円 / 学生・65 歳以上・団体(10 名以上) 350 円 / 高校生以下無料
※アーツ前橋 1 階ギャラリー及び前橋文学館 3 階オープンギャラリーは無料
※障害者手帳等をお持ちの方と介護者 1 名は無料
※以下のいずれかの条件に該当の方は、観覧料が 350 円
1)アーツトワイライト割：17 時以降にアーツ前橋にご来場された方
2)文学館早起き割：11 時より前に前橋文学館にご来場された方
3)ヒツクリコ ガツクリコ割：ペアでご来場された方
※観覧無料日：10 月 20 日(金)[展覧会初日]、10 月 28 日(土)[群馬県民の日]、
1 月 9 日(火)[前橋初市まつり]
- 【**主 催**】 アーツ前橋、萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館
- 【**助 成**】 文化庁 平成 29 年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
- 【**後 援**】 上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK 前橋放送局、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばし CITY エフエム、前橋商工会議所
- 【**参加作家**】 足立智美／荒井良二／浦上秀樹／大澤雅休／大澤竹胎／オノ・ヨーコ／oblaat／
河川龍夫／河原温／フランチェスコ・カンジュッロ／北園克衛／草野心平／
ジョン・ケージ／塩見允枝子／クルト・シュヴィッターズ／白石慶子／鈴木ヒラク／
トゥッリオ・ダルビゾラ／トリスタン・ツァラ／東宮七男／TOLTA／新国誠一／ni_ka／
萩原恭次郎／萩原朔太郎／福田尚代／文月悠光／ベン・ヴォーティエ／
ジョージ・マチューナス／Maniackers Design／フィリップ・T. マリネッティ／
ミヤギフトシ／ムットーニ／山川冬樹／山村暮鳥／横堀艸風

本展の見どころ

1. アーツ前橋と前橋文学館の共同企画展

お互いの施設の特性を生かし、全国的にもめずらしい美術館と文学館の共同企画展です。前橋文学館は、萩原朔太郎や萩原恭次郎などの地域ゆかりの作家からコンクリートポエトリーを始めとする前衛的な活字表現を紹介します。アーツ前橋では、活字に留まらない言葉の特徴として、未来派やフルクサスのような 20 世紀の美術運動から現代作家までを中心に紹介し、人間と言葉の関係や言葉の始原的な役割を考えます。

2. 「ことば」を切り口に現代のメディアについて考える

印刷技術やインターネット、ソーシャルメディアの発展と共に私たちと言葉の関係は大きく変化しました。かつてのマスメディアに代わって個人が一つのメディアとして機能することで、現代社会は「ポスト真実」の時代と評されます。ni_ka や文月悠光のような若い詩人たちは、言葉とメディアの新たな関係を考えます。また、東日本大震災のような未曾有の出来事は、私たちに言葉の限界を感じさせるとともに、表現の可能性を再考させる機会になりました。河口龍夫や山川冬樹は、人間の生の叫びとしての言葉の存在を再認識させるような新作を発表します。

3. 専門的な視点から「ことば」を考える図録

展覧会の記録でありながらも、単に展示内容をなぞる図録ではなく、企画展のテーマについて読み深められる書籍としての図録を発行します。現代の書を牽引する石川九楊や芥川賞候補となった温又柔なども参加します。論考や対談のみならず、参加作家が図録の為に書き下ろした原稿(小説や詩)を収録し、「展覧会を見る」という行為から「図録を読む」という行為までをお楽しみいただきます。

4. 子どもや高校生との協働から生まれる作品

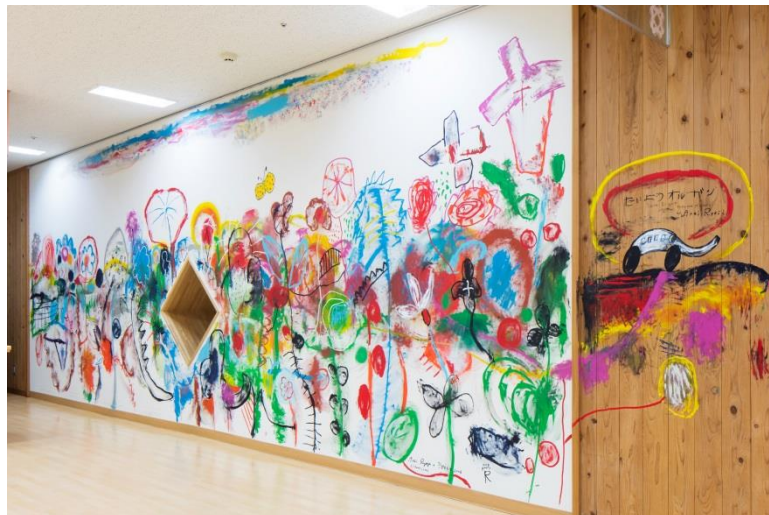
前橋こども図書館は、今年で開館 10 周年を迎えます。こども図書館の壁画を描いた荒井良二を再び前橋に招き、子どもたちと一緒に「萩原朔太郎のオノマトペ」をテーマとしたワークショップを展覧会会期前に開催します。本ワークショップで作られた作品は、会期中アーツ前橋や前橋文学館に展示されます。また、市内に点在する荒井良二の作品やゆかりの場所をまとめた「荒井良二を巡る旅 MAP」を発行し、子どもも楽しみながら「ことば」に触れられるプログラムを用意しています。

5. 街なかを楽しくめぐるプログラム

館内の企画展だけでなくアーツ前橋と前橋文学館が立地する「街なか」を楽しめるプログラムを展開します。二つの施設を結ぶ千代田通り沿いには、Maniackers Design によるユニークなフラッグがお披露目されます。また、詩人ユニットの TOLTA は市立前橋高校の生徒たちと一緒に作品を制作しながら、街なかのシャッターや建物の外壁などに作品を展開します。参加者は、街なかを歩きながら TOLTA の投げかける問いに答え、言葉を紡ぎながら、自分だけの詩を作ります。また、アーツ前橋開館前のイベントがきっかけで生まれた「芽部」の主催により、オープンマイクなど、さまざまなことばにまつわるイベントが会期中に行われます。



【図 3】大澤雅休《があんびゃん》 制作年不詳 紙本墨書 高橋朋舛氏蔵 ©Kigure Shinya



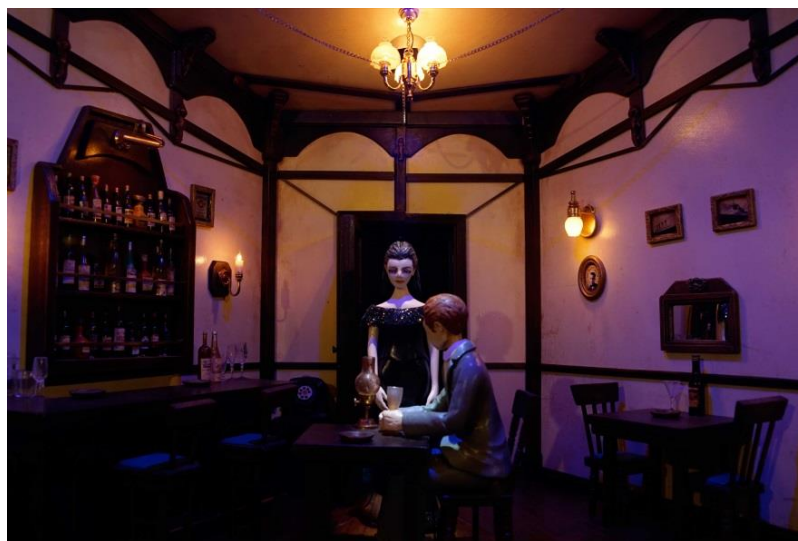
【図 4】荒井良二と 20 人の子どもたちによる壁画 2008 年 前橋こども図書館 ©Kigure Shinya



【図 5】河川龍夫《失語の詩》 2017 年 原稿用紙 100 枚、鉛筆、水彩 作家蔵 ©Kigure Shinya



【図 6】 TOLTA 《dada/ポジティブな呪いのつみき》 2016 年



【図 7】 ムットーニ 《題のない歌》（原作・萩原朔太郎） 2016 年 作家蔵

関連イベント

① TOLTA×アーツ前橋×市立前橋高校 ワークショップ

河野聡子、佐次田哲、関口文子、山田亮太の4名からなるヴァーバル・アート・ユニット、TOLTAのメンバーが「書く」「話す」「記録する」をテーマとした3日間のワークショップを市立前橋高校の生徒とともに開催します。ワークショップの間に録音された音声や成果が展示作品の一部となります。

1日目：8月17日(木) 9:30～12:30 アーツ前橋 1F スタジオ

2日目：8月18日(金) 9:30～12:30 アーツ前橋 1F スタジオ

3日目：8月19日(土) 9:30～12:30 アーツ前橋 2F 会議室

② 三館共同企画 荒井良二と作る展覧会！

前橋市立図書館、前橋文学館、アーツ前橋の三館共同企画としてワークショップを開催します。荒井良二と一緒に作品を制作し、本展に参加してみませんか！作品は、本展会期中にアーツ前橋と前橋文学館にて展示されます。

日時：9月30日(土) 11:00～16:00

10月1日(日) 11:00～16:00

会場：アーツ前橋

対象：両日とも参加できる小学3年生～6年生

定員：30名

参加費：無料

申込み：先着順。9月8日(金)～9月25日(月)の11時～19時にアーツ前橋へ電話(Tel. 027-230-1144)

③ ヒックリコ ガックリコ トーク

なぜ今「ことば」について考えるのか。現代における言葉の問題について、展覧会参加作家や文学／言葉の専門家を招いたトークイベントを開催します。

日時：10月21日(土)

【第一部 14:30～16:00】

平川克美(文筆家、思想家)×文月悠光(本展参加作家、詩人)×萩原朔美(前橋文学館館長)

【第二部 16:30～18:00】

名児耶明(五島美術館副館長)×鈴木ヒラク(本展参加作家)×住友文彦(アーツ前橋館長)

会場：前橋文学館 3階ホール

参加費：無料

定員：100名

申込み：前橋文学館へ電話(Tel. 027-235-8011)

④ 今日の原稿用紙-TOLTAによるツアー型ワークショップー

ガイドにそって前橋の街を歩き、その体験をもとに一篇の詩を作ります。

日 時：10月22日(日) 14:00～

集合場所：アーツ前橋 1階総合案内

持ち物：時計(携帯電話でも可)

参加費：無料(要観覧券)

対 象：高校生以上

定 員：20名

申込み：アーツ前橋へ電話(Tel. 027-230-1144)

⑤ ムットーニ からくりミニシアター 上演とトーク

日 時：11月4日(土) 14:00～

会 場：前橋文学館 3階ホール

出 演：ムットーニ(武藤政彦)

参加費：無料(要観覧券)

定 員：80名

申込み：前橋文学館へ電話(Tel. 027-235-8011)

⑥ 三角みづ紀 詩のワークショップ

日 時：11月11日(土) 14:00～

会 場：前橋文学館 4階研修室

講 師：三角みづ紀(詩人、第22回萩原朔太郎賞受賞)

参加費：無料

定 員：25名

申込み：前橋文学館へ電話(Tel. 027-235-8011)

⑦ 山川冬樹 パフォーマンス

日 時：12月2日(土)

① 14:00～15:30 パフォーマンス

② 16:00～17:30 山川冬樹×今井朋(本展担当学芸員) 対談

会 場：アーツ前橋 地下ギャラリー

参加費：無料(要観覧券)

※申込み不要

⑧ かくとはなす

本展参加作家の鈴木ヒラクのライブパフォーマンスと今福龍太との対談を開催します。

日 時：12月9日(土)

① 14:00～14:30 ドローイングパフォーマンス

② 14:45～16:15 今福龍太(文化人類学者)×鈴木ヒラク 対談

会 場：アーツ前橋地下ギャラリー(パフォーマンス)、アーツ前橋スタジオ(対談)

参加費：無料(要観覧券)

定 員：50名(対談のみ)

申込み：対談のみ事前予約制、アーツ前橋へ電話(Tel. 027-230-1144)

⑨ 学芸員によるギャラリートーク

① 11月18日(土) 13:30～(前橋文学館)、15:00～(アーツ前橋)

② 12月10日(日) 13:30～(アーツ前橋)、15:00～(前橋文学館)

③ 1月13日(土) 13:30～(前橋文学館)、15:00～(アーツ前橋)

※申込み不要(観覧券をご購入のうえ、アーツ前橋 1 階総合受付又は前橋文学館 2 階展示室にお集まりください)

⑩ こどもアート探検

日 時：11月26日(日) 14:00～

会 場：アーツ前橋 ギャラリー

対 象：小学生以下(未就学児は保護者同伴)

※申込み不要

⑪ ヒックリコ ガツクリコ街なか回遊プロジェクト

○千代田通りフラッグプロジェクト

アーツ前橋と前橋文学館をつなぐ約 400m の千代田通りを中心に、参加作家の Maniackers Design がデザインしたオリジナルのフラッグを掲出します。

○前橋ことばの学校 詩のまちから言葉のまちへ

芽部*がトークイベント、読み聞かせ、ワークショップ、詩作講座、演奏会、オープンマイク等さまざまな言葉にまつわるイベントを開催。芽部が発行する「出席簿」を持って、週末などに街なかで行われるイベントに参加するとオリジナル修了証とグッズがもらえます。

※アーツ前橋の開館前に行われたプレイベント・アートスクール B コースの受講生を母体に 2011 年 8 月に発足。

※イベント詳細については芽部公式サイト(<http://mebu-maebashi.com/>)又は、「前橋ことばの学校」チラシをご覧ください。

○荒井良二を巡る旅

前橋の街なかには参加作家の荒井良二の作品がいくつあるかを知っていますか? 地図を片手に、荒井さんの作品を楽しみながら前橋を巡る旅に出かけてみてください。

プレスレビュー

日時：10月19日(木) 14:00～19:00(※最終入場は18:30まで)

会場：アーツ前橋、前橋文学館

※一部のアーティストが立ち会うプレス向け作品解説会は、14:30からアーツ前橋、前橋文学館の順で実施します。(立会い予定作家：鈴木ヒラク、ミヤギフトシほか)

出版物

本展覧会にあわせ、コンセプトブックを出版します。

発行：左右社

定価：未定

仕様：A5変形、256頁

デザイン：大原大次郎

執筆者：石川九楊／今井朋／王舟／温又柔／栗本高行／鈴木ヒラク／住友文彦／瀬戸夏子／
建畠哲／谷川渥／萩原朔美／平川克美／文月悠光／ミヤギフトシ／山本浩貴
※五十音順

発行日：10月末、左右社より全国発売

記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名称と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋又は前橋文学館までご送付ください。
- ・取材、収録等は、必ず事前にお問い合わせください。

お問い合わせ

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当：今井(学芸担当)、山田(広報担当)

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL：027-230-1144 FAX：027-232-2016 URL：<http://www.artsmaebashi.jp/>

Email：artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

前橋文学館

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当：小林(学芸担当)、福田(広報担当)

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 3-12-10

TEL：027-235-8011 FAX：027-235-8512 URL：<http://www.maebashibungakukan.jp/>

Email：bungakukan@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

アーツ前橋

[公共交通機関]

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

[自動車]

関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分

前橋文学館

[公共交通機関]

JR 前橋駅から徒歩約 20 分

上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

[自動車]

関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分



※アーツ前橋では、Pマークの駐車場のご利用に関しては、駐車券に4時間無料の割引処理をいたします。ただし、文学館では市営パーク城東の駐車券のみに2時間無料の割引処理となります。

アーツ前橋×前橋文学館共同企画展「ヒツクリコ ガツクリコ ことばの生まれる場所」 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○を付けてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供いたします。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご
提供できません。

*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
【1】	鈴木ヒラク《Constellation#01》 2016 年 紙にシルバーインクと墨汁、アルミニウムマ ウント 前澤友作氏蔵 ©Hiraku Suzuki
【2】	新国誠一『新國誠一詩集』 1979 年 ASA(芸術研究協会) うらわ美術館蔵
【3】	大澤雅休《があんびゃん》 制作年不詳 紙本墨書 高橋朋艸氏蔵 ©Kigure Shinya
【4】	荒井良二と 20 人の子どもたちによる壁画 2008 年 前橋こども図書館 ©Kigure Shinya
【5】	河口龍夫《失語の詩》 2017 年 原稿用紙 100 枚、鉛筆、水彩 作家蔵 ©Kigure Shinya
【6】	TOLTA《dada/ポジティブな呪いのつみき》 2016 年
【7】	ムットーニ《題のない歌》(原作・萩原朔太郎) 2016 年 作家蔵
【8】	萩原恭次郎『死刑宣告』(再版) 1926 年 長隆舎書店 前橋文学館蔵 ©Kigure Shinya
【9】	福田尚代《冬眠》 2007 年 本に刺繍 うらわ美術館蔵

◎読者プレゼント用招待券(5組 10 名様)

☐希望します

☐希望しません

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

掲載誌：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地：〒	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	